



## ボッシュがライドシェアリング事業に参入 米国の相乗りサービスのスタートアップ企業 SPLT を買収

2018年2月21日

PI 10016 RB CS/BT

- ▶ アプリを使って相乗りで通勤:通勤者向け相乗りサービス
- ▶ 未来のモビリティサービス市場:2桁成長を目指す
- ▶ 取締役会メンバーのマルクス・ハイン:「スマートフォンは移動の最も重要なツールに」

ベルリン/シュトゥットガルト(ドイツ) – ボッシュはライドシェアリング事業に参入します。グローバル規模で革新的なテクノロジーとサービスを提供するボッシュは、デトロイトを拠点とするスタートアップ企業 Splitting Fares Inc. (SPLT)を買収しました。SPLTは、企業、大学、自治体当局が職員にライドシェアリングサービスを提供するためのプラットフォームを運営しています。この B2B アプローチは、通勤者向けに設計されています。SPLT はアプリを使って同じルートで通勤、通学する人たちをつなぎます。アルゴリズムは同乗者をマッチングし、最短ルートを計算します。目的は、渋滞を緩和し、毎日の通勤の負担を軽減することです。SPLT は 2015 年に設立されました。現在、米国、メキシコ、ドイツで 14 万人がこのサービスを利用しています。両社は、取得価格を非公開とすることで合意しています。「SPLT の取得によって、私たちは成長分野であるモビリティサービスのポートフォリオを拡充しています」と、ボッシュ取締役会メンバーのマルクス・ハインは述べています。ボッシュは、コネクテッドモビリティサービスで 2 桁成長を目指しています。

ハインはさらに「スマートフォンは移動の最も重要なツールとなりつつあります」と述べています。道路利用者と交通機関をネットワーク化することで、自由度の高いマルチモーダルなモビリティが可能になります。誰もが移動方法を瞬時に選び、必要な手配を行うことができます。「この持続可能で安価なモビリティサービスにより、人々の移動のあり方を根本的に変えたいと考えています」と SPLT の共同設立者兼 CEO である Anya Babbitt は述べています。

### 増加する通勤者

デジタルサービスとアプリを使って相乗り相手を見つけたり、カーシェアリングやタクシーを手配するライドシェアリングは、コネクテッドモビリティ分野の成長市場です。2022年には、全世界のライドシェアリングの利用者数は現在より60%増加し、6億8,500万人に達すると予想されています(出典 Statista)。これまで、既存のサービスでは、たまたま同じ方向に行く人や、その場で移動手段を確保しようという人を対象にしており、企業や通勤者は重視されていませんでした。しかし、そこに大きなポテンシャルがあります。ドイツ連邦自動車庁によると、ドイツだけで4,500万台以上の車両があります。そして、通勤者の数は増加しています。建設都市空間整備研究所(BBSR)の調べによると、自宅と職場が同一市内にない労働者は5人のうち3人にのぼります。ドイツ連邦統計局によれば、労働人口の約3分の2が毎日の通勤の手段として自家用車を第一に挙げています。自家用車が主な通勤手段であることは、世界的に見ても同じです。ラッシュアワーには頻繁に交通渋滞が発生し、何百万人もの通勤者が日々渋滞で立往生しています。ここで問題なのは、自家用車では通常ドライバーが1人で通勤しているということです。相乗りは、まだ例外的な手段です。ここで SPLT のソリューションが活躍します。

### ストレスがなく、低コストで、環境に与える影響が少ない通勤

SPLT はライドシェアリングを可能にします。使い方は非常に簡単です。企業や大学、自治体当局は、職員が SPLT プラットフォームにアクセスできるようにします。職員は SPLT のアプリをダウンロード・登録し、相乗り相手を探したり、相乗りを申し出ることができます。予約はその場で、または事前に行うことが可能です。到着時間はリアルタイムで表示され、費用は同僚の間で分担され、オンラインで課金されます。この B2B サービスは、毎日同じルートを移動する利用者を対象としています。このアプリの利点のひとつは、相乗りするのが同僚であるということです。つまり、利用者は全く知らない人と一緒に車に乗る必要はありません。付随的な効果として、このような相乗りはコミュニケーションを促進し、人脈作りにもつながります。社用バスもアプリに統合することができ、より柔軟かつ効率的に利用することができます。その結果、ストレスを感じずに、低コストで、そして環境にもほとんど影響を与えることなく通勤が可能です。企業はまた、交通量の削減にも貢献することができます。今後数年間で、SPLT ユーザーの数は何倍にも増加し、利用できる地域も拡大していくと期待されています。ボッシュではメキシコの従業員が既にこのアプリを使用しており、今後、全社に利用を広げる予定です。「私たちは、ボッシュと共に世界で成長を遂げるチャンスがあると信じています」と Babbitt は語ります。SPLT はボッシュ・グループ内の独立事業体であり、100%出資子会社として運営されます。

### 3,500 人が参加、70 社が出典、140 人が講演

ボッシュの IoT 活動は、コネクテッドモビリティ、コネクテッドマニュファクチャリング、ネットワーク化されたエネルギーシステムと建物のソリューションなど多岐にわたっています。ベルリンで開催される IoT 業界向けフォーラム「Bosch ConnectedWorld」は、70 社を超える出展企業が、モノのインターネット化ですでに可能なことと、

今後どのように人々の日常生活を向上させるのかを紹介します。ベルリンのイベントホール「Station」の1万平方メートルの展示スペースには、2月21日から22日にかけて約3,500人の参加者が集います。ボッシュ CEO の Folkmar Denner のほか、ディーター・ツェツェ(ダイムラーCEO)、フランク・アッペル(ドイツポスト DHL CEO)、ヨハン・ユングヴィルト(フォルクスワーゲン CDO)など約140人が講演を行います。ハッカソンにはプログラマー、スタートアップ企業の従業員、デザイナーなど約700人が参加し、コネクテッドモビリティサービス、自動運転、ネットワーク化された製造と物流管理、ネットワーク化された暮らしのための新しいアイデアを開発します。今年で5回目の開催となる Bosch ConnectedWorld は、モノのインターネット化をテーマとする世界最大級のカンファレンスのひとつです。

## 報道関係対応窓口

Inga Ehret

電話: +49 +711 811-16476

### 世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2017年の従業員数は約40万500人(2017年12月31日現在)、暫定決算報告での売上高は780億ユーロ(約9.9兆円\*)を計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングカンパニーとして、スマートホーム、スマートシティ、コネクテッドモビリティ、さらにコネクテッドインダストリーに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社450社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売/サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界125の拠点で約6万2,500人の従業員が研究開発に携わっています。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ(1861~1942年)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

\*2017年の為替平均レート:1ユーロ=126.71118円

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

[www.bosch.com](http://www.bosch.com) ボッシュ・グローバル・ウェブサイト(英語)

[www.bosch-press.com](http://www.bosch-press.com) ボッシュ・メディア・サービス(英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター(ドイツ語)

[www.bosch.co.jp/](http://www.bosch.co.jp/) ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト(日本語)

<https://twitter.com/BoschJapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター(日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック(日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube(日本語)